

○中島源陽委員長 予算特別委員会を再開いたします。

休憩前に引き続き、総括質疑を継続します。

社民フォーラム県議団の質疑を行います。

なお、質疑時間は、答弁を含めて五分です。熊谷義彦委員。

○熊谷義彦委員 知事にお尋ねをいたします。現在、感染症分類で新型コロナウイルスは二類とされていますが、五類移行の話もあります。五類移行を前提にした場合、どのような条件でそれが移行できるのかということ、知事が考える条件があればお示しいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○村井嘉浩知事 分類見直しにつきましては、全国知事会等を通じて議論の必要性を申し上げておりました、移行が可能な条件については、国の専門家会議等で議論されるものと思いますが、重症化率の低さや、ワクチン接種の進捗、治療薬の開発等が挙げられるものと考えております。また、第七波では、これまでにない規模の感染拡大を経験し、医療機関や保健所の業務が逼迫いたしました。他方で、高齢者等のリスクのある人への保健医療体制の重点化など、これまでの取組も成果を上げていることから、見直しを進めるということは必要であると考えております。

○熊谷義彦委員 先ほどの質疑で、気になる言葉がありました。この二類から五類の関係で、先導的にやりたいという発言が知事からありました。先ほどの答弁と若干食い違っていて、国の方針を待つのではなく、先導的にやるというふうに私には聞こえたのですが、先導的にやるという言葉の本身、前提は何ですか。

○村井嘉浩知事 あくまでも二類から五類にするのは国が決めることでありまして、専門家の意見を聞いていただきたい。その際に、国がそういう方針を示したならば、しっかりと対応していきたいという意味で申し上げます。

○熊谷義彦委員 先導的にやるという言葉、そういうふうに先ほど受け取れなかったものですから、あえてお話を申し上げました。この二類から五類の関係というのは、極めて慎重に取扱いをしなければならぬというふうに思っておりますので、簡単に言うてしまえば、特効薬ができればですね、それは私も五類になり得るだろうと思います。現状ではそういうことはないと私は思っています。現状で五類にする必要性はないというふうに知事は認識しているということでしょうか。

○村井嘉浩知事 現状においては、まだこれだけ患者が多いわけでありますので、すぐに五類にすることは難しいというふうに思っております。

○熊谷義彦委員 今回、検査キットの購入予算も入っているわけでありますが、在庫は一体どれくらいあるんだということ。併せて、これまで障害者施設、介護施設等々では一週間ごとの配布が二週間配布になって、その二週間配布も遅れている現状があるというふうには私は理解をしておりますが、これはなぜですか。

○伊藤哲也保健福祉部長 高齢者施設等の検査分の在庫数は、九月九日現在で五百五十キットであります。高齢者施設等の頻回検査についての八月以降の対応としては、最低限必要な二週間に一回分のキットを配布し、お盆に帰省した方や新規入所者などには、週二回から三回程度検査を実施するなど、施設において柔軟な対応ができるよう、随時の検査の実施を要請しております。また、陽性者が発生した施設については、その都度必要数の配布を行っているとあります。

○熊谷義彦委員 今の答弁では、二週間に一遍の配布は、順調に配布をされているというふうな言い回しに聞こえたのですが、私がお話を聞いたところでは、二週間に一遍のところも遅れているという事実があったのですが、それはないということでしょうか。

○伊藤哲也保健福祉部長 申請いただいたところについては、二週間に一遍程度の頻度の分を前倒しでお送りしておりますので、要請には応えられているものと認識しております。

○熊谷義彦委員 もう少しきちんと実態をつかんでいただければ大変ありがたいなと思います。現実には遅れているところがあるわけですから、そこはやっぱりきちんとやるべきだろうと。そういった、検査体制がきちんとされていない、十分な対応ができないという中で、全数把握をやめて規制緩和をする。私は対応が逆転しているのではないかと思っておりますが、知事はどのようにお考えですか。

○伊藤哲也保健福祉部長 今回の発生届の限定は、医療機関及び保健所の業務逼迫を回避し、限られた医療資源を高齢者や重症化リスクの高い方に集中させることを目的としたものですので、必要な対応であると考えております。

○熊谷義彦委員 きちんと対応できるようにお願いを申し上げて、終わりにさせていた

だ
き
ま
す。
。